

# 土壌消毒なし ガーベラ好調

静岡・浜松PCガーベラの藤野さん



ガーベラの状態を見る藤野さん

## 環境考え挑戦8年

### 土の炭素率調節、菌抑える

静岡県JAとびあ浜松の生産者組織・浜松PCガーベラに所属する藤野正己さん(44)は、土壌消毒なしのガーベラ栽培に挑戦している。初年は花の枯死率が栽培面積の6%だったが、8年目の現在は2%未満に減少。土耕では熱水やクロルピクリン薫蒸剤での消毒が一般的だが、藤野さんは土中の根圏の炭素率を9〜11に保つことで、土壌病害の原因とみられる菌の活性を抑えている。

土耕で連作するガーベラ農家は一般的に、病害を防ぐため土壌消毒をする。フザリウム菌による

立ち枯れ病や、半身萎ちよう病などが発生しやすくなるためだ。

土壌消毒には臭化メチルが使われてきたが、環境問題から、日本を含む先進国で2005年から原則、製造・使用が禁止された。藤野さんはこれを機に「せつかくなら環境に優しい農法をしよう」と奮起。県内のコン

サルタント企業の農芸環境(株)と組み、現在は土耕する約4435平方メートルで取り組む。土壌病害の原因とみら

れるフザリウム菌は、土中の炭素率(炭素と窒素の割合)が高い培地だと活発になりやすいが、高すぎると株が窒素分を吸収できない面もある。ちょうどいいバランスを探し、根圏の炭素率を9〜11に調整することで菌の発生抑制効果を見つけた。炭素率は堆肥(たいひ)を使って調節する。藤野さんは土壌診断を定期的に行う。また同じPCガーベラで土耕栽培する山中啓慈さん(46)は「だれにでも合う方法とは思わないが、土づくりや丁寧な株管理で土壌病害を抑えることは十分可能だ」と話す。

今年度から、同組織では試験圃場(ほじょう)を設けて、藤野さんが進める土壌消毒なしでの栽培試験を行う予定。藤野さんは「だれにでも合う方法とは思わないが、土づくりや丁寧な株管理で土壌病害を抑えることは十分可能だ」と話す。

浜松PCガーベラは、農家17人で構成し、年間売上高約7億2000万円(08年度)、年間出荷量約21万株(1ヶ100本、08年度)を誇る。全員がエコファーマー認証を取得済みだ。